

施設戦略

既存施設の有効活用と戦略的整備を通して、大学の教育研究基盤を支えています。また、環境保全に関する取組を進めています。

TOPIC

社会の様々な人々との連携により、創造活動を展開する「共創」の拠点（イノベーションコモンズ）として、産業界と共同利用できるオープンラボを充実、教育研究の機能強化としてラーニングスペースやコミュニケーションルームを確保、地方公共団体との連携拠点整備を行っています。

また、災害に備えて、急傾斜地崩落対策や災害時給水システムの整備を行っています。（→P.139「キャンパスの整備について」）

キャンパスの整備について

既存施設の有効活用

- ・ 既存スペースを集約化し、新たなスペースを創出



プロジェクトスペース

(深江) 5号館改修整備
(2023)



ラーニングcommons

(六甲台2) 自然科学系図書館
改修整備 (2022)



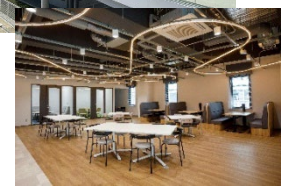
(六甲台2)
情報価値創造教育棟
(2025)

教育研究施設の充実

- ・ 産学連携、イノベーション・commonsの整備



(ポートアイランド2)
メテックイノベーションセンター
(2024)



(ポートアイランド4)
バイオものづくり研究棟
(2025)

課外活動・福利施設の整備

- ・ 寄附金による整備
- ・ PPP事業による整備



(六甲台1)
グラウンド
(人工芝化) 整備
(2019)



(楠) 福利厚生棟
(2023)

災害対策に関する整備

- ・ 急傾斜地の崩落対策



急傾斜地安全対策 (2013~2023)

- ・ 災害時に使用できる給水システム整備



災害時給水システム設置 (2014~2015)



歴史的建築物の保存・活用

- ・ 歴史的建築物の保存・活用
- ・ 時代を継承する修景の維持



(六甲台1) 本館 改修整備 (2013)



(六甲台1) 図書館
改修整備 (2014)

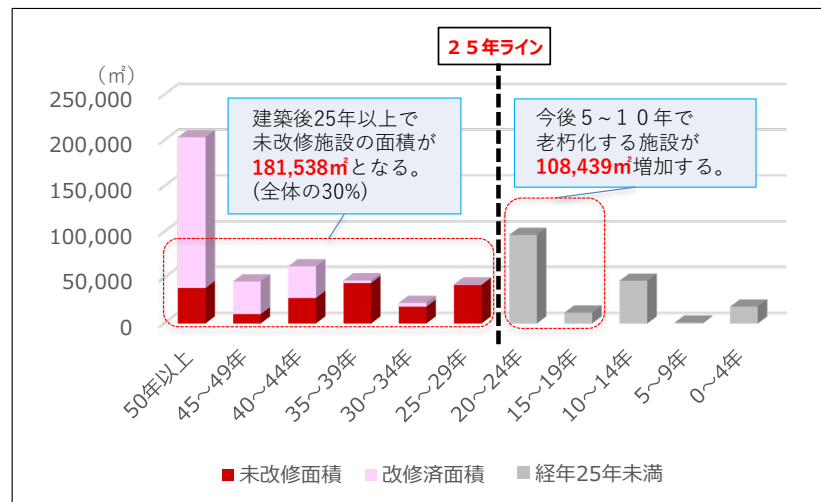


(六甲台1) 武道場
改修整備 (2012)

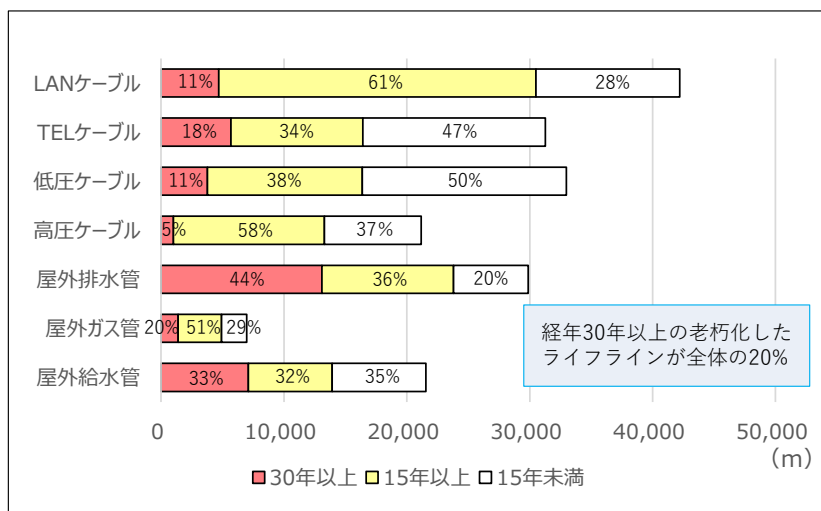
施設整備の課題と取組み状況

現 状

- 大学の施設は老朽化が著しく、今後ますます老朽化が進行
- 経年30年以上でライフラインの事故発生率が急増



神戸大学の建物の経年別保有面積 (R7.5.1現在)



神戸大学のライフライン経年状況 (R7.5.1現在)

課 題

- 老朽化が原因で施設及びライフラインの故障や事故が増加、教育研究基盤の弱体化
- 大学ビジョンの達成に向けた戦略を推進するため、その基盤となる施設の維持・保全に必要な財源の確保

課題解決に向けた取組を推進

神戸大学インフラ長寿命化計画及び神戸大学アクションプランに基づき、以下の取組を重点的に推進

- 老朽化した外壁・防水を改修 (建物老朽劣化対策事業)

【R6年度実績：外壁改修7棟、防水改修12棟】

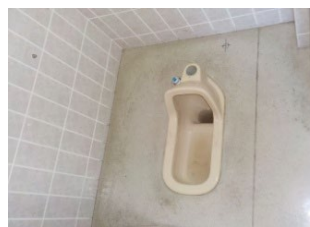
- 老朽化した空調機を更新・トイレの洋式化等

【R6年度実績：空調機更新162台、トイレ洋式化74台】

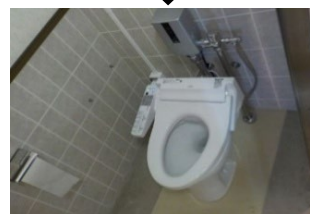
- 老朽化した建物やライフライン更新 (施設整備費補助事業)

【R6年度実績：バイオフィングナル棟改修、(医病)防災設備・熱源更新、給排水管3157m、低圧ケーブル402m】

【(名谷) 研究実習棟 (E・F棟)】



工事改修前

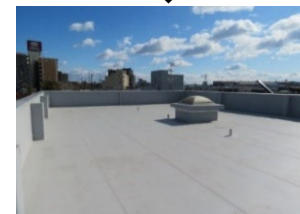


工事改修後

【(深江) 極低温実験棟】



工事改修前



工事改修後

【(鶴甲1) 共通教育・校舎棟】



工事改修前



工事改修後

神戸大学では環境憲章(平成18年9月26日制定)を定め、基本理念、基本方針に基づいてさまざまな環境保全活動を行い、本学が行っている環境・省エネへの取り組みなどを、環境報告書として毎年公表しています。

環境憲章

(基本理念)

神戸大学は、世界最高水準の研究教育拠点として、大学における全ての活動を通じて現代の最重要課題である地球環境の保全と持続可能な社会の創造に全力で取り組みます。

私たちは、山と海に囲まれた地域環境を活かして環境意識の高い人材を育成するとともに、国際都市神戸から世界へ向けた学術的な情報発信を常に推進し、自らも環境保全に率先垂範することを通して、持続可能な社会という人類共通の目標を実現する道を築いていくことを約束します。

(基本方針)

1. 環境意識の高い人材の育成と支援
2. 地球環境を維持し創造するための研究の促進
3. 率先垂範としての環境保全活動の推進

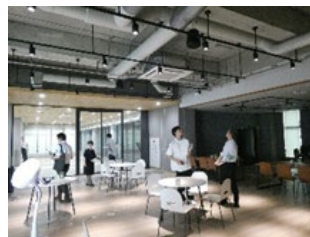
環境保全推進センター

本学における環境保全を推進するための組織として、環境保全推進センターを設置しています。各学部・研究科等と連携しながら環境・省エネの取り組みを進めています。

(第4期中期目標期間における環境マネジメントを推進するための基本方針)

- I 3R活動の推進
- II エネルギーの使用の合理化に関する取り組み
- III 環境マネジメントサイクルの実施と継続
- IV 環境月間(6月)での環境活動強化

環境・省エネへの取り組み例



照明の部分消灯・ごみの分別の調査



神戸大学環境報告書



神戸大学環境報告書

検索



環境保全推進センター
全学報告会の開催



e c o 活動見学会
の実施



神戸大学エコバッグ
配布(新入生対象)

インクルーシブキャンパス（ハード面）に向けての取組

インクルーシブキャンパスとは

学生・教職員他、大学を利用するすべての人々がアクセシブルなキャンパス

ハード面での取組の考え方

「基礎的環境整備」とは障害のある者に対する支援のために必要な環境が整備されること。

「合理的配慮」とは、障害のある者が他の学生と平等に教育・研究を受ける権利を行使するため、基礎的環境整備を基に障害のある者に対し、その状況に応じて提供されること。

合理的配慮と基礎的環境整備の厳密な区分よりも、両者併せて必要な配慮が提供されているかという視点が求められる。

概念図

Aさんのための合理的配慮

Bさんのための合理的配慮

合理的配慮

大学による環境整備

合理的配慮の基礎となる環境整備
(基礎的環境整備)

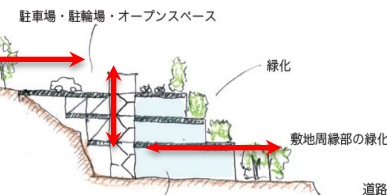
神戸大学の現状・課題

六甲台地区は六甲山系の中腹に位置する高低差が激しいキャンパスである。障害のある学生にとってキャンパス内の移動の快適性や安全性の向上といった修学支援充実に向けた取組を推進。

神戸大学の取組状況(基礎的環境整備)

神戸大学キャンパスマスタープランでは、「TSUNAGU〜つなぐ〜」をコンセプトに、学生間や地域社会をつなぐための検討事項を示している。

この中の部門別計画「キャンパス動線計画」に基づき、ユニバーサルデザインの手法を用い、キャンパス利用者の動線に大きな改善効果が期待される箇所について順次整備をすすめている。



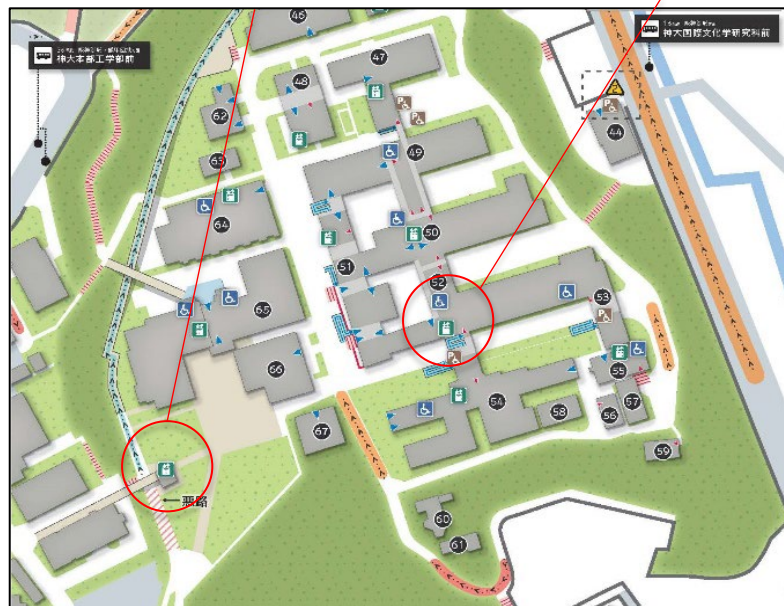
斜面地活用のケーススタディ



段差解消の取組 (エレベーター棟整備)



多機能トイレの整備



バリアフリーマップ (六甲台2)

施設設備設置状況

- 車椅子対応トイレ
- エレベーター
- 車椅子対応駐車場

出入り口

- 自動扉・引き戸・常時開放扉
- 開き戸

道・傾斜路・階段

白い箇所は平坦な通路です。

- 市道
- 建物出入口スロープ
- 傾斜路 (約 3~4.5°)
一人での移動が可能な傾斜路。
- やや急な傾斜路 (約 4.5~7°)
介助者の同伴が望まれます。
- 急な傾斜路 (約 7° ~)
介助者の同伴が必要であり、移動の際には注意が必要です。

階段 段差

2030年までのロードマップ

中期目標期間		第4期						第5期
年度		2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028～2030年度
Ⅷ.施設戦略								
施設の戦略的方向性	キャンパスマスタープラン							
	既存施設の有効活用							
	老朽化施設の戦略的整備							
施設の重点整備事業	長寿命化改修（防水・外壁）							
	空調設備更新							
	ライフライン再生計画（5期～10期）（全14期）							
	3年ごとに施設点検を実施し、 状況等により計画建物の見直し							
インクルーシブキャンパス（ハード面）		基礎的環境整備（段差解消、トイレのユニバーサル化等）						
国等の施設戦略		第5次国立大学法人等施設整備5か年計画				第6次国立大学法人等施設整備5か年計画		